

## E 型 肝 炎 に つ い て

### E 型肝炎とは

E型肝炎は、E型肝炎ウイルス(hepatitis E virus : HEV)の感染によって引き起こされる急性肝炎です。潜伏期間は、2～9週間(平均6週間)で、HEVに感染しても発症しないことが多いとされています(不顕性感染)。発症した場合の致死率は、全体の1～3%ですが、妊婦の場合は、15～25%と高くなります。また、慢性化することなく一過性に経過します。

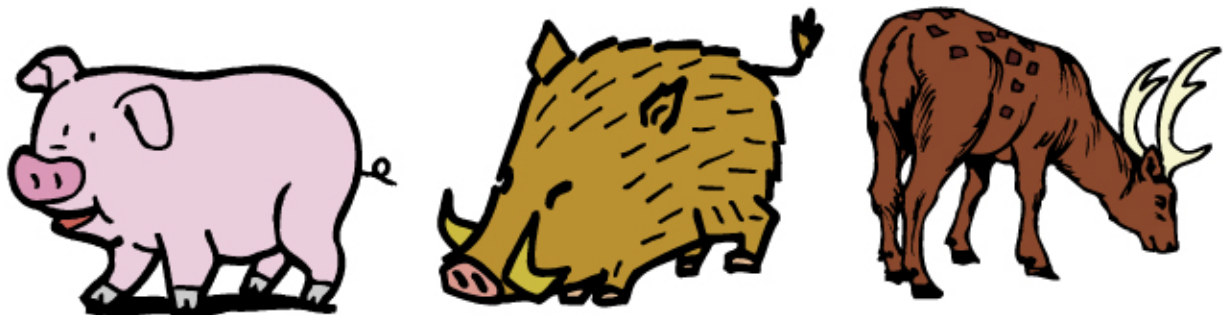
E型肝炎の主な感染経路は、経口感染であり、患者の便の中に排泄されたHEVが、飲料水や食品などを介して人の口の中に入って感染します。そのため、E型肝炎は、衛生面が不十分な発展途上国で常時散発的に発生している疾病です。先進国におけるE型肝炎は、かつては輸入感染症とされ、発展途上国への旅行者にのみ見られる疾病であると考えられていました。しかし、近年、これら発展途上国への渡航歴のない患者が海外や日本において報告されています。そして、それらの患者と動物との関連性が示され、E型肝炎が動物由来感染症である可能性が示唆されています。

### E 型肝炎は動物由来感染症か

E型肝炎が動物由来感染症であると考えられるようになった理由として、次のことがあげられます。

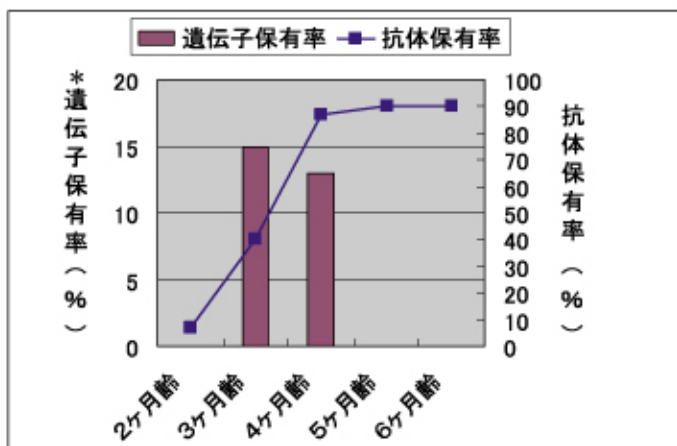
- 1 ヒトのHEVと遺伝学的に極めて近いウイルスが、豚から見つかったこと。
- 2 豚と猿の両方に感染するHEVが存在すること。
- 3 豚と接する人(獣医や養豚農家)は、接しない人よりも高い確率でHEVに対する抗体(過去に感染したことを示す。)をもっていること。
- 4 動物の生の肉や内臓を食べて、E型肝炎を発症したと思われる患者が報告されたこと。

4については、これまでに、豚、イノシシ及びシカの生肉の摂食が原因と考えられる事例が報告されています。これらの動物の中で、摂食する機会が多い豚のE型肝炎について紹介します。



## 豚とE型肝炎

1997年に初めて豚からHEVが分離されて以降、豚のE型肝炎については、多くの調査・研究が行われ、その結果から次のことが分かってきています。



Takahashi et al., (2003) Journal of General Virology 84, 851-862

\*遺伝子保有率については、5ヶ月齢は未実施

- 1 HEV抗体保有率は、月齢と共に上昇する。
- 2 HEV遺伝子（現在、感染していることを示す。）の保有率は、若齢で高く、6ヶ月齢からはほとんど検出されない。

これらのことから、豚のHEVの主な感染時期は、出荷前の育成期であり、豚が通常出荷される6ヶ月齢に達すると、既にHEVは体内から消失していると考えられます。

京都市においても、京都市と畜場に搬入された豚101頭について、HEV遺伝子保有率を調査した結果、すべての豚で陰性でした。しかし、国内のいくつかのと畜場に出荷された一部の豚の血液や糞便からHEV遺伝子が検出されていることや北海道内で売られていた豚レバーの1.9%からHEV遺伝子が検出されているため、豚肉の摂食によりHEVに感染する危険性は、ゼロではありません。

例えば、北海道で発生したE型肝炎に感染した患者10人のうち9人が、発症前の2～8週の間に生や加熱不十分な豚レバーを食べて発症した事例などが報告されています。

このように、近年、E型肝炎発症の原因が豚肉の摂食ではないかと疑われる事例が報告されていますが、豚肉の摂食とE型肝炎の発症を結び付ける直接の証拠は、まだ報告されていません。

## E型肝炎を予防するために

上記の事例を含めて患者の多くは、生や加熱不十分な肉や内臓を食べていました。HEVは通常の加熱調理を行えば感染性を失います。そのため、肉や内臓の生食などを避け、十分な加熱処理を行うことにより、E型肝炎を予防することができます。また、生水の摂取はできるかぎり避けてください。

最近発生したO157や食中毒事件では、生レバーや肉、卵を生そのまま食べたことが原因と考えられる事件が増えています。

豚肉、牛肉、鶏肉や卵などには、サルモネラやカンピロバクターなどの食中毒菌が付いていることがありますので生食はやめましょう！

## E型肝炎について詳しく知りたい人のために

厚生労働省ホームページに詳しい情報が公開されています。

E型肝炎ウイルス感染事例について

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/kanshi/041129-1.html>

E型肝炎Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/08/h0819-2a.html>